

2016年12月

## 営業職に対する意識とイメージの改革

情報学部 経営情報学科 山崎ゼミ  
B3P21025 大瀧 雅哉

### 【卒業論文概要】

企業のビジネスを成功させ成長させる原動力として、営業職は不可欠である。しかしながら、今日、営業職に就きたくないという大学生の声を耳にすることも多い。その背景として営業職に対して、過去のマイナスのイメージが横行し、大学生の営業職への意識に影響しているのではないかと考えられる。このことは結果として、就職活動での大学生の志望職種としての営業職離れが深刻化しているのではないかとと思われる。一方、時代の流れとともに、営業職のイメージも過去ものから現代へと変化していると考えられる。これらのことを鑑み、本研究ではその出発点として、実際に今日の大学生が営業職についてどのような意識やイメージについて抱いているのかを調査した。さらに営業職に対して、どのような能力、識やスキルが必要と考えているかを調査した。調査対象は文教大学の2年生と3年生とし、質問票によりデータ収集を行った。調査結果は営業職についてやはりネガティブなイメージを持っていることが確認された。「営業職＝きつい」という意識が定着していることが原因と思われる。さらに、調査結果から営業職に必要な能力について、大学生と営業マンとでは、その認識のずれが浮かび上がった。大学生はコミュニケーション力が最も必要な能力だと考えているが、実際に、最も大切とされる能力は「素直さ」や「奉仕の心」である。これらの調査結果を踏まえて、今後の営業職に対するイメージ、能力について考察した。